

安積山製鉄遺跡(平安時代末期の製鉄遺跡) 探訪 2004. 2. 11.

1. 古代 産鉄の地 「讃容里」大撫山の夜明けと朝霧 佐用郡佐用町
2. 古代 産鉄の地 「御方里」周辺 平安末期の安積山製鉄遺跡を訪ねて 宍粟郡一宮町
azumiyama00.htm by M. Nakanishi 2004. 3. 1.



古代の御方里周辺 一宮町安積にあるこの地方で一番古い製鉄遺跡 安積山製鉄遺跡



讃容の里 大撫山の夜明けと朝霧



産鉄と縁の深い大国主命を祭る 播磨一宮 伊和神社

一番寒い時が過ぎ、やっと暖かくなりだした 2. 12. 早朝

兵庫県の西端 西播磨北部の佐用町大撫山に素晴らしい朝霧が出ると聞いて家内と二人出かけました。また、同時に大撫山など佐用の山々を挟んで東側の揖保川が流れる一宮町一帯は古代には「御方里」と呼ばれたもうひとつの産鉄地。一宮町安積にある安積山製鉄遺跡を訪ねてきました。

「讃容の里 大撫山」は「四面十二の谷皆鉄を産する」と播磨風土記に産鉄の記事があり、昨年 11 月に訪れた所である。

播磨国風土記 古代製鉄の一大生産地「讃容の里」Walk 兵庫県佐用郡 大撫山製鉄遺跡群を訪ねて 2003. 11. 14.

<http://www.asahi-net.or.jp/~zp4m-nkns/sayou00.htm>

山また山に囲まれた佐用町の中央にあって山また山の狭い盆地の山の間を朝霧が覆うという。

また、一宮町は町名の由来となった鉄と関係深い出雲の大国主命を祭る播磨国一の宮「伊和神社」があり、古代播磨風土記に「御方里」と呼ばれた産鉄の地はこの一宮町北部山間一帯(三方町)である。

ちょうど 次は揖保川水系の製鉄遺跡を訪れたいと計画していた事もあり、大撫山の日出にあわせ、真っ暗な早朝神戸を出て、朝靄の中に浮かぶ山々に朝日が輝く素晴らしい大撫山の光景。

一宮の街道筋の際の小高い丘にある安積山遺跡。眼下に揖保川と一宮を見下ろす城山の南面の小高い丘今は周りの山肌に沿って鉄分を含む赤茶けた水が流れ込む湿地に灌木や雑草が埋め尽くしているが、谷に沿って幾段かになった地形と山肌の赤いベンガラ色が本当に印象的な製鉄遺跡でした。

1. 古代 産鉄の地「讃容里」 大撫山の夜明けと朝霧 佐用郡佐用町
2. 古代 産鉄の地「御方里」平安末期の安積山製鉄遺跡を訪ねて 宍粟郡一宮町

兵庫県の西端 西播磨北部の中国山地は古代からの和鉄の一大製鉄地帯である。

播磨国一宮 伊和神社に出雲の大国主神(おこなむちのみこと別名 大国主命または大物主命 素戔鳴尊の子の孫という伝承もある)が祭られ、「出雲から播磨にやってきた大国主命がまず讃容の地にやって来て、その後 宍粟郡 御方里の地に本拠を置き、播磨国全体を治められた」と風土記に記されている。

出雲の神 大国主命伝承には産鉄族が強く結びついており、播磨北部のこの地が古くから産鉄の地で出雲と深く結びついていた事がうかがえる。

奈良時代に成立した播磨風土記には次の西播磨北部佐用郡や宍粟郡の揖保川や千種川の山間地に産鉄の記事がある。

播磨風土記に記された 西播磨北部 古代の産鉄の地

● 大撫山の山裾を千種川に注ぎ込む佐用川の山里「讃容の里」(現在の佐用郡佐用町)

『山(鹿庭山)の四面に十二の谷がある みな鉄を産する。難波の豊前の朝廷に始めて献上した』

● 千種川のさらに上流「柏野里」の条 敷草村 (現在の宍粟郡千種町)

『草を敷いて神の御座所とした。 だから敷草という。 この村に山がある。 その南方十里ばかりの所に沢がある。二町ばかりである。

(桧・杉・オウレン・黒葛などが生える。 鉄を産する。狼・熊が住む)』

● 揖保川水系 「御方里」の条 金内川 (御方里は今の宍粟郡一ノ宮町 三方町)

『御方と呼ぶわけは葦原志許乎命が天日槍命と黒土の志爾嵩(のちの生野銀山)にお行きになりお互いに黒葛を三条足につけて投げなされた。 その時葦原志許乎命の黒葛は一条は但馬の気多 一条は夜夫の郡に落ち、一条(三条目)はこの村に落ちた。 だから三条(ミカタ)という。あるいはこうもいっている。

「大神が形見として御杖をこの村に立てられた。だから御形(ミカタ)という。

大内川・小内川・金内川 大きい方を大内といい、小さいのを小内と称し、鉄を産するのを金内と称する。 その山には桧・杉・黒葛などが生える。 狼・熊が住む』

(金内川は一ノ宮町の北で西から引原川を合流する前の揖保川本流の最上流部と考えられている)



このように古代 風土記の時代から、強く産鉄と結びついた伝承の残るこれら西播磨北部の一大製鉄地帯は地質的にも出雲から美作・播磨北部 丹後の地へ中国山地を東西に高品質の砂鉄を含む花崗岩の大ベルトが分布するその真っ只中に位置している。

この中国山地中央を東西に貫く花崗岩地帯には品質の良い鉄鉱物が含まれ、それらから山砂鉄・川砂鉄・浜砂鉄が採取され、たたら製鉄原料として用いられた。

特に千種川上流の千種 揖保川上流の波賀町は磁鉄鉱系の砂鉄が取れる花崗岩鉄脈があり、千種岩野辺には製鉄神「金屋子神」降臨の地として、和鉄発祥の地伝承が残り、近世には「千種鉄」の大産地として発展する。

また、揖保川水系の谷間 一宮には町名の由来となった播磨国一宮の伊和神社があり、製鉄と関係の深い出雲 大国主命が祭神で、さらに、揖保川を遡った三方町が古代の御方で、多くのたたら遺跡がある。さらに、揖保川に合流する引原川の上流波賀町にも多くのたたら遺跡が残っている。

佐用町では品位は低いが比較的容易に溶融するチタン鉄鉱系の砂鉄を産出し、古代 播磨風土記の時代には讃容里として柏野里敷草村や御方里とともに和鉄の産地であった。

一宮町はちょうど姫路・山崎から兵庫の背骨氷ノ山の南戸倉峠を越えて鳥取へ抜ける因幡街道の中間点。

また、千種より東へ岩野辺を通過して山越えして揖保川沿いに下りたところ。

幾度か「たたら」の文字を見た街道筋。千草か街道筋に沿ってすぐそばにたたら遺跡があるとは露知らず。

1. 15. 姫路の県立歴史博物館「播磨北部の生業と武士」の展示で古代の御方里 一宮町の揖保川本流が引原川と分流するその分流点の山に平安末期の大きな製鉄遺跡 安積山製鉄遺跡があることを知りました。

一宮町界隈を訪れにはちょうどいい機会になりました。



播磨国一宮伊和神社

宮山 神奈備山

伊和神社の森

伊和神社入口 社 殿



製鉄と関連の深い出雲 大国主命を祭る 播磨国一の宮 伊和神社



安積山製鉄遺跡のある一宮町 安積近傍

中央の写真 背後の山が南麓に安積山製鉄遺跡のある城山

右の写真 山裾を引原川が流れる

1. 古代の産鉄の地「讃容里」 大撫山の夜明けと朝霧

佐用郡佐用町



2月11日 まだ、夜明け前 神戸から中国道を通って、佐用ICへ。大撫山は佐用ICのすぐそばにある。

山崎断層が東西に伸びる山々に囲まれた狭い盆地に佐用の街があり、この盆地の中に佐用川と千種川の本流が流れ込み佐用の街の南で合流する。

この川霧が秋から冬にかけての寒い朝この狭い盆地を埋め尽くし、周りの山々を霧の中に浮かび上がらせる。

大撫山は佐用の街のすぐ北にあり、この佐用の盆地や周辺の山々を見下ろす絶好の位置にある。

ちょっと時期的には遅いのですが、朝霧が出ることを期待半分 周りの朝焼けの山々が見られるだけでも良いと思って出かけました。山口県的美祢盆地も朝霧が出る素晴らしい所 写真取れなかったので 写真が取れば・・・とかすかな期待。



夜明け前の中国道 佐用 正面が大撫山



大撫山の日の出 2004.2.11.



日の出を迎えた佐用の街 2004. 2. 11.

東の空がしらみはじめ、まだ日の出前の朝7時前に佐用の町につき、大撫山のドライブウェイを登りだす。くっきりと山が見え残念ながら霧は全くなし。

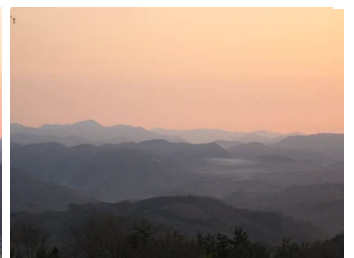
人っ子一人いない大撫山山頂。山並みが続く東の空を真っ赤に染めながら朝日が昇ってくる。

眼下の佐用の街や山々の間にうっすらと霧が立ちこめ、山の朝の素晴らしい景色が見える。雲海に埋め尽くされた山の朝を期待しましたが、朝霧に煙る山々の背後から、朝日が照らす山の静かな朝 やっぱり落ち着いた素晴らしい景色である。

東の日名倉山の山腹のあたりには一条の朝霧がずっと横に糸を引き谷や小さな集落を覆い隠して、また違った朝霧の風景を見せている。



佐用町 大撫山の夜明け 朝霧 2004. 2. 11.



心地よい寒さと共に周りの山々とよく調和した素晴らしい山の朝。やっぱり来た甲斐がありました。雲海が出る頃はおそらく 多くの人で一杯なのでしょうが、今日は二人で独り占め。

神戸から高速道路で約 1.5 時間 山また山の夜明け 素晴らしい風景が楽しめ お奨めです。

2004. 2. 11. Mutsuo Nakanishi

【参考】 播磨国風土記 古代製鉄の一大生産地「讃容の里」Walk

兵庫県佐用郡 大撫山製鉄遺跡群を訪ねて 2003. 11. <http://www.asahi-net.or.jp/~zp4m-nkns/sayou00.htm>

2. 古代産鉄の地「御方里」一帯

平安末期の安積山製鉄遺跡を訪ねて 中央栗郡一宮町



安積山製鉄遺跡のある一宮町 安積近傍

中央の写真背後の山が南麓に安積山製鉄遺跡のある城山

右写真 山裾を引原川が流れる

あすみやまいせき

安積山遺跡

(一宮町安積字丸山)

中国地方の東方に連なる穴栗郡の北部一帯では、近代にいたるまで砂鉄を原料とする製鉄が盛んに行われて来ました。古くは、奈良時代に成立した「播磨国風土記」の中に「御方里」に「鐵を生ず土地があつたことが記されています。

安積山遺跡は古城山の南麓に位置し、南東約1Kの地点では播保川本流と引原川が合流しています。この地域は、播磨地方と但馬地方および因幡地方とを結ぶ交通の要所として重要な役割を果たして来ました。

平成6年度に行われた発掘調査では、丸山の東向き斜面を削り出した3段の平坦部の上に築かれた12基の製鉄炉跡が確認されています。製鉄炉は、大型炉(6基)、小型炉(5基)、特殊な形の炉(1基)に分けられ、その構造から中国地方に多い「長方形箱形炉」と呼ばれる形態のものであったと考えられます。炉の周囲では原料の砂鉄置き場や燃料の木炭置き場なども確認されています。

安積山遺跡の製鉄炉群は、平安時代の終わりにごろに操業されたとみられ、現在のところ穴栗郡内においては最も古い時期のものであり、なおかつ最大規模の製鉄遺跡と考えられます。

1. 15. 姫路の県立歴史博物館「播磨北部の生業と武士」の展示で 一宮町の揖保川本流が引原川と分流するその分流点の山に平安末期の大きな製鉄遺跡 安積山製鉄遺跡があることを知りました。
一宮町はちょうど姫路・山崎から兵庫の背骨氷ノ山の南戸倉峠を越えて鳥取へ抜ける因幡街道の中間点。
また、千種より東へ岩野辺を通して山越えて揖保川沿いに下りたところ。
幾度か「たたら」の文字を見た街道筋。でも 街道筋に沿ってすぐそばにたたら遺跡があるとは露知らず。
古代の御方里 一宮町界隈を訪れにはちょうどいい機会になりました。

佐用町から東へ一旦山崎町まで戻り、そこから揖保川に沿って北へ遡る。
昔から鳥取と姫路・大阪を結ぶ因幡街道の街道筋。山崎から北は中国山地奥に分け入る山深い道である。
両側を山に閉ざされた狭い平坦地を流れ下る揖保川に沿って遡ってゆく国道 29 号線因幡街道を北に向かう。
この街道筋の両側に家並が続く、揖保川と両側の山を眺めながら 中国山地の奥へ奥へと向う。
約 20 分ほどで道の左に森、右に道の駅。播磨一宮 伊和神社である。杉の大木が街道と境内を分けている。
出雲からやってきた大国主命を祭る大社である。背後の宮山は神奈火備山。出雲との交流の深さ 鉄とのかかわりを伝える神社である。



播磨国一宮伊和神社
宮山 神奈備山
伊和神社入口 社 殿



製鉄と関連の深い出雲 大国主命を祭る 播磨国一の宮 伊和神社



安積の街にある案内板



安積橋から 城山

目的地の安積山製鉄遺跡はさらに 10 分ほど北に行った安積にある。
ここは一宮町の中心で揖保川が東側からの引原川と西側から流れ下る本流とが合流する地点で、この合流点の山

「城山」の南麓に安積山製鉄遺跡がある。

この城山の東側を揖保川本流に沿ってさらに遡ると古代の御方里 三方である。

今も この奥には多くの製鉄遺跡が残っている。

御方里へはもう少し暖かくなってからゆっくり訪ね、製鉄遺

跡ばかりでなく、谷筋の溪谷や古代遺跡などを歩き、温泉にも行って、山越えて生野へ抜けたいと思っている。
また西側を引原川に沿ってさらに遡ると波賀町 ここにも多くの製鉄遺跡が残っている。

そんな御方里への入り口が安積 そこに平安末期の安積山製鉄遺跡がある。

このあたり一帯は古代から、時代を越えた和鉄の大製鉄地帯である。

【参考 播磨風土記に記述のある古代産鉄の地 御方里】 インターネット検索より

播磨国風土記（713～714年）御方里の条に

『御方と呼ぶわけは葦原志許乎命が天日槍命と黒土の志爾嵩（のちの生野銀山）にお行きになり、お互いに黒葛を三条足につけて投げなされた。

その時葦原志許乎命の黒葛は一条は但馬の気多 一条は夜夫の郡に落ち、一条（三条目）はこの村に落ちた。 だから三条（ミカタ）という。

あるいはこうもいっている。

「大神が形見として御杖をこの村に立てられた。だから御形（ミカタ）という。

大内川・小内川・金内川 大きい方を大内といい、小さいのを小内と称し、鉄を産するのを金内と称する。 その山には桧・杉・黒葛などが生える。 狼・熊が住む』

とある「御方里」である。

この一ノ宮町三方周辺で周囲の山を水源として、三つの川が揖保川に流れ込む。そのひとつ公文川の川筋「公文」には金屋、タタラ場、鍛冶屋敷、堤ヶ谷、カマス置場等、鉄に困んだ場所と、数ヶ所のタタラ址があり、また、公文の枝郷小原、溝谷は木地師の里で木地屋、鉄山、うるし採取、炭焼き等、山は栄え、賑やかで、但馬との交流も多く、次のような古歌も残っているという。

「朝日さす、夕日かがやくこの奥は、真金千杯、うるし千杯」

また、この地には、大国主命を祭る御形神社や縄文時代から中世にかけて営まれた複合遺跡 家原遺跡などがあり、この地が産鉄地として古代から開かれた地であることがわかる。

御形神社 祭神は葦原志許男神で、現存する本殿は、三間社流造り、檜皮葺きで宝亀3年の創建から3度目の1527年に建立されたものです。

室町時代後期の様式や技法を伝える木組や彫刻があり、彩色が施されています。

昭和42年に国の重要文化財に指定。

家原遺跡公園 家原遺跡は、一宮北部の河岸段丘の上に営まれた縄文時代から中世にかけての大規模な住居跡複合遺跡。

公園内には、その家原遺で実際に発掘された遺構をもとに各時代の建物を忠実に復元。



御形神社



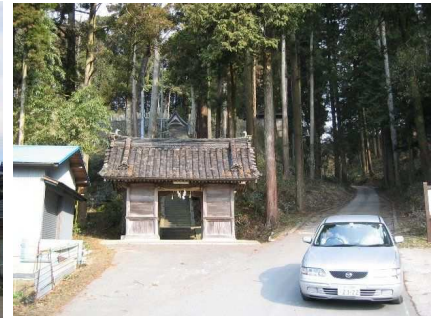
家原遺跡公園



曲里・安積橋から眺める城山 2004.2.11.

伊和神社から さらに 10 分ほど北に街道を進むと程なく三角形の小高い山が正面に見えてくる。それが、安積山製鉄遺跡群が南麓にひろがる城山。大きな曲里集落に入るとすぐに、右に大屋・八鹿・朝来町への標識がある揖保川にかかる橋に出る。揖保川はこのすぐ手前に北からの引原川と合流点があり、其処から西北に変えて、古代の

御方里 三方など源流部にいたる。この安積橋を渡ると安積の集落。城山がすぐ前に迫る。ここで国道と別れ、安積の集落に入り、八幡神社の脇を通りまっすぐ城山の山へ登ってゆく。八幡神社を南から北へ回りこむと林に包まれた小高い丘にでて北に城山がそびえる南麓に出る。



安積集落から安積山製鉄遺跡に登ってゆく八幡神社脇の道

西に向って小道が続くその正面に赤茶けた山肌を露出した小高い丘があり、道の南にはなだらかな雑草の生い茂った原っぱが広がり、道端に小さな説明板が立ち、ここが安積山製鉄遺跡である。



安積山製鉄遺跡 正面が丸山 道の右手に城山がそびえる 2004. 2. 11.



丸山の東斜面に沿って広がる湿地 安積山製鉄遺跡

北側の城山 南麓側

道路のそばに立てられている「安積山製鉄遺跡」の説明板には下記のように記されている。

「平成6年度に行われた発掘調査では、丸山の東向き斜面を掘り出した3段の平坦部の上に築かれた12基の製鉄炉跡が確認された。

製鉄炉はいずれも中国地方に多い「長方形箱型炉」の形態をした大型炉6基小型炉5基特殊な形の炉1基に分けられる。炉の周囲では原料の砂鉄置き場や木炭置き場も確認された。

この製鉄遺跡群は平安時代の終り頃に操業されたと見られ、現在では宍粟郡内では最も古い時期でかつ、最大規模の製鉄遺跡である。」



製鉄炉が築かれた？ 丸山東斜面



説明板に載っていた発掘調査で出土した製鉄炉

おそらく看板が立てられたすぐ横の赤い土を露出している斜面が製鉄炉が建設された丸山東向きの斜面だろう。この斜面の下は背の高い雑草や灌木が生い茂る広い平坦な湿地が広がり、南の方に傾斜しながら幾つかの小さい支谷を形成し、小さな川が流れている。

この湿地に降りると中は生い茂る草と水でぐしょぐしょ。よく見ると水溜りは赤茶け、油が浮いたようになっていて、鉄分が本当に多い湿地である事がうかがえる。



丸山東面に沿って広がる湿地 安積山製鉄遺跡



丸山東面に沿って広がる湿地



安積山製鉄遺跡の平坦部を鉄分の多い水が湿地を覆っている





安積山製鉄遺跡の北側部 城山南麓の平坦部



「釜床」の地名標識が見える



安積山製鉄遺跡の北側部



城山南麓の平坦部に残る 苔むした石垣



湿地とは反対側の北 城山の南麓にも数段に分かれた平坦部があり、ここにも色々製鉄関係の施設があったに違いないが、今はもう全くわからず。ただ、道路沿いを含めて幾つかの平坦部があり、「釜床」の地名も見える。また、時代はわかりませんが、苔むした石垣が数段残っていました。製鉄遺跡を引き継いで関係した建物があつたかも知れません。

この安積山製鉄遺跡 周辺は中国山地の真っ只中であるが、明るい尾根筋。
集落のすぐ裏山で、因幡街道のすぐ横で実に開放的な場所。山を分け入るという感じがしない。
他の製鉄遺跡が人里はなれて山深く 谷をつめた場所を切り開いて存在するのとはちょっと印象が違う。
これは、この地の山々の尾根筋が赤茶けた色で判るごとく周辺一帯が本当に砂鉄豊富な場所であり、この山の両側すぐ横に川が流れ、品質の良い原料が大量に容易に手に入れられる場所である事。そしてこのことを軸に古くからの鉄の通商路が開けた街道筋であつたことによると思われる。
まさに大製鉄地帯の真っ只中にあることの証がこの製鉄遺跡の位置なのかもしれない。
こんなに街道筋に近く 大きな製鉄遺跡があつたことにビックリ。



丸山頂上部から眼下に広がる安積の町と西麓を流れる引原川



また、この遺跡は平安末期の遺跡であるが、この遺跡の東北には古代播磨風土記の産鉄地 御方里が在る。そこさらに生野・八鹿・丹後への道が延びている。

東には 柏里敷草村 千種・岩野辺から吉備・美作から出雲へ
また北には波賀町から産鉄地伯耆国・出雲へ。

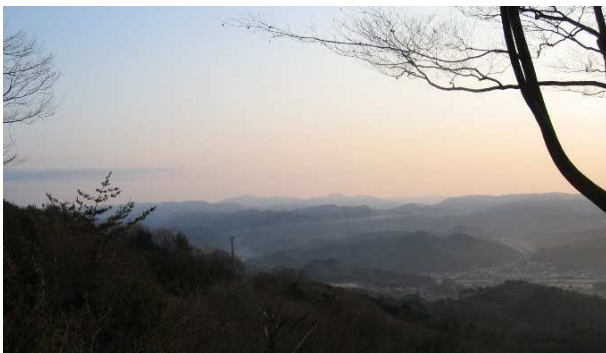
いまだ この地で古代の製鉄遺跡は見つかってはいないが、その伝承など考えると この地を含め、西播磨北部は間違いなく大陸から畿内 また中国山地に広がる産鉄国を結ぶ古代の鉄の通商路 Iron Road の交差点。

鉄とともに多くの人々・文化が通っていったに違いない。

次は是非 三方 古代の御方里へ そして 丹後についてももう一度考えてみたい。

豊富な高品質な磁鉄鉱系の砂鉄がありながら、他所からチタン含有量の多い砂鉄を用いた丹後遠所遺跡の製鉄技術。佐用ではチタン系 千種・揖保川周辺では磁鉄鉱系砂鉄が使われ、ここも古代の大きな時代の転換にかかわっていると思われる。そして若狭から越の国も・・・・・・・・。

これらが 畿内 大和政権の伸長 渡来人を巻き込んだ日本の覇権をかけての争いにかかわって・・・・・・・・。



最近の新聞では

「最近の加速器 C14 による年代測定の成果は目覚しく、弥生時代の倭国の卑弥呼の時代が、
どうも古墳時代の幕開けの時代と重なっている。

そうすると卑弥呼も今までの巫女的役割から深く鉄の覇権の中心的存在としての側面が
浮かび上がってくる。奈良の古墳群の評価見直しが始まっている」

との研究成果を伝えている。

奈良の鉄屋の仲間が纏向遺跡や箸墓遺跡を訪れ、興味津々と前にメールくれましたが、現実味をおびてきました。

いよいよ、産鉄民の神奈備山 三輪山 と卑弥呼の時代が結びついてくる。

三輪山は山麓に古い製鉄遺跡のある鉄の山 三輪明神 大神神社（おおみわじんじゃ）は三輪山を御神体として、大物主神を祀る。

「山と溪谷」3月号では 神社で許可をもらえばこの三輪山の頂上に立てる。その眺望はすばらしい・・と。

全く意外 知りませんでした。

本当に暖かくなるのが待ち遠しい。

2004. 2. 11. 一宮町安積 安積山製鉄遺跡の帰り

播磨国の製鉄遺跡から日本誕生の和鉄の道に思いをめぐらしながら

by Mutsuo Nakanishi



播磨風土記の和鉄【2】 御方里周辺 (宍粟郡一ノ宮町安積)
 安積山製鉄遺跡(平安時代末期の製鉄遺跡) 探訪 2004. 2. 11.

1. 古代産鉄の地「讃容里」大撫山の夜明けと朝霧 佐用郡 佐用町
2. 古代産鉄の地「御方里」周辺 平安末期の安積山製鉄遺跡を訪ねて 宍粟郡 一宮町 安積

【完】

